

一般質問

そこが聞きたい！

議員は、毎年3月、6月、9月、12月に開催される定例会で、市政全般に対し質問をすることができます。

これを「一般質問」といいます。今定例会では、19人が一般質問を行いました。ここに掲げたのは、その質問・答弁の概要で、質問者本人が執筆しています。

なお、各ページに掲載しているQRコードから、各議員の一般質問の録画配信映像をご覧ください。

感染症対策実施中





録画配信 

生活・事業者支援

ロシアの侵略を絶対に許すな！早期終結を！

公明党
三浦 芳一 議員

Q 地方創生臨時交付金を活用し支援を

A 幅広く、スピード感を持って対応する

議員 「地方創生臨時交付金」を活用し、学校給食費や保育園・幼稚園・認可外保育施設などの給食費、公共料金などの負担軽減と生活困窮者支援を図れ。

企画財政部長 市民・事業者支援へ幅広く交付金を活用し、スピード感を持って対応する。

Q 4回目接種の丁寧な説明と推進を

A 迅速・安全に接種できる体制を確保する

議員 4回目接種の接種対象者は「60歳以上」などと限定されている。丁寧な説明と推進を。

健康福祉部長 18歳以上59歳以下で基礎疾患がある人は事前申請が必要となる。案内チラシの全戸配布をはじめ、広報戸田市、町会掲示板へのポスター、公共施設や医療機関でのチラシの配布などで周知し、迅速かつ安全な接種体制を確保する。

Q ウクライナ避難民の生活・就労など支援を


A ニーズに合わせ、きめ細やかな支援を行う


議員 ウクライナ避難民の生活・就労・学業支援を。

市民生活部長 市が国際交流協会や社協などの関連機関で構成する「ウクライナ避難民支援対策連絡会議」を設置し、個々のニーズに合わせた、きめ細やかな支援を行う。



国際交流協会にウクライナ避難民生活相談センターが設置されています



録画配信 

土地区画整理事業

土地区画整理事業の早期完了を！

みらいの会
細田 昌孝 議員

Q 土地区画整理事務所機能の本庁舎移転を

A 本庁舎移転の準備を進めていく

議員 地権者の代表である審議会の意見からも、早期完了が強く望まれている。市長は施行者代表としてどう捉えているのか。

市長 審議会からの意見を真摯に捉え、早期完了を目指す。早期完了を実現する取り組みの一つとして、土地区画整理事務所の本庁舎移転の準備を進めていく。

Q 各駅に駅前行政センターなどの計画を

A 公共施設への需要をしっかり捉えていく

議員 速やかに土地区画整理事業を完了するためには、今まで以上に事務所の監視体制機能の強化及び関係部局との連携が必要である。土地区画整理事務所を本庁舎へ移転することを要望する。

議員 市民意識調査で利用率が一番高い駅前行政センター。今後、戸田駅及び北戸田駅周辺に駅前行政センターなど、多目的な公共施設を設置する計画はあるか。

企画財政部長 現時点で設置の計画はない。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大などにより社会情勢や市民生活が大きく変容する中、時代やニーズに合わせた公共施設の再編を行う必要があると考えており、今後、公共施設への需要をしっかり捉えていく。



市民の利用が多い駅前行政センター



録画配信 

不登校対策

社会全体で子供たちの支援を！

公明党
竹内 正明 議員

Q 教育支援センター「すてっぴ」の効果は

A 学びの場の保障などの効果が出ている

議員 コロナ禍で大変な中、子供たちに寄り添う学校現場の先生方、教育委員会、関係者の皆さまに感謝する。教育支援センター「すてっぴ」の効果は。

教育部長 約30人の児童生徒が通級。生活のリズムを整える、学びの場の保障ができるなどが挙げられる。

議員 「戸田型オルタナティブ・プラン」は不登校を①支援する②科学する③理解する、という素晴らしい取り組みである。①では、ばれっとルームを設置した3校とも効果があると確認した。今後、全校に配置を。③の「社会に開かれたネットワーク構築事業」では、地域全体で一緒に関わる、学校や家庭への支援者が増えていき、重要である。私もこども食堂などのボランティアに関わり、学校や家庭だけではない子供たちの支援が大事だと感じる。日常の話しや悩みを聴き、認め、褒めてあげる。そうした大人を増やしていく。そんな子供たちへの支援を全力で応援したい。戸田翔陽高校に開設した不登校中学生支援教室「いっぽ」にも期待する。

その他の質問

Q メタバースの活用を

A 課題や有効性などを検証していく

Topic 1 誰一人取り残されない教育の実現に向けて

「戸田型オルタナティブ・プラン」を推進します

問い合わせ 教育センター 434-5660

「不登校」は、国全体の課題です。市では、今年度より「科学的視点」「未然防止」「早期発見・早期対応」「適切な支援」をキーワードに、不登校対策支援プラン「戸田型オルタナティブ・プラン」を進めます。
「戸田型オルタナティブ・プラン」では、3つの事業を推進します。ここでは、未だの計画であることから「誰一人取り残されない支援」を掲げています。

1 戸田型校内サポートルームの設置

～不登校を「支援」する～

- ～校内サポートルーム「ばれっとルーム」(東部地区)の設置
- ～小学校スクールカウンセラー配置による各学校、専任支援員(学級)の配置
- ～学習サポートセンター(遠くでも全学年に配置)
- ～ICTを活用した学習支援や教育相談の推進
- ～教育支援センター「すてっぴ」、教育センターなどの連携

2 不登校対策ラボラトリーの設立

～不登校を「科学」する～

- ～専門性による学習支援ラボラトリー「ばれっと」の設置
- ～本市の不登校対策「支援に関する調査・研究」の推進
- ～アンケートなどを活用し、個別・学習の発見
- ～不登校学習室・検査室との連携に係る研究
- ～各学校や関係者での不登校に関する取り組みへの連携・推進

3 社会に開かれたネットワークの構築

～不登校を「理解」する～

- ～地域や保護者を対象としたセッションの開催
- ～「ばれっとルーム」での地域人材や学校関係者との連携の推進
- ～各学校での不登校相談員の育成
- ～取組進捗レポートの作成・公開

誰一人取り残されない教育が進められています
(広報戸田市5月号より抜粋)